

官刻

普救類方

卷之一下

卷之一下
 口舌之部 口舌瘡 口糜
 唇吻之部 唇腫
 齒之部 齒齦之部
 咽喉之部 骨硬類
 聲
 耳之部 耳痛 耳瘡 耳出汁
 耳鳴 耳聾 耳腫 耳出血
 聘耳 虫入耳類
 鼻之部 鼻中瘰肉 鼻齜 鼻淵 鼻瘡

庫	文	閣	內
九	二		和
五	四		
函	九		書
	一		
三	二	六	類
架	冊	號	

(二冊)

				和
		二	四	書
		九	九	門
		六	六	
一	八	七	六	類
二	架	函	號	
冊				

內閣文庫	
番號	和 24916
冊數	12 (2)
函號	195 33



普救類方卷之一下

口舌之部

口舌瘡

口舌瘡由來之方

黃連をほろと煮て、含て嚥下す一或ハ黄連乾

姜を分粉して、本草綱目

又方細辛黄連等分粉し、瘡は傳ふ一或ハ細辛と黄

蘇と紙用りも一同

又方生姜の志をりけりて、瘡は伝ふ一或ハ紙用り

るがり得効方

又方五倍子の粉を、衛生易簡方

又方黄蘗粗皮を、一夜乾

林良草文庫

丹羽正伯

纂輯

普救類方 卷之一下

くそをけをふくそとより一筋胸の中糞一瘻をまらるるは
右の葉一盃ほどのそとより一筋

又方甘草白礬を粉より一筋にちりてより一筋
口中に抱き来そとより一筋

附子の粉と白朮粉を研よく移り足の子を研よく男
は女より六分の足(根)一筋二筋つくとより一筋

又方天門冬麦門冬必瓜さりと云々を粉より一筋を移り
枇杷の核の大き移に丸一筋口中にちりて味を吞下とより一筋

口中に抱き来痛あり
又味子一名滑石五分黄蘗五分蜜よかきませ炒く粉より一筋
べー久くくろる皮を煮く飲食すべー一筋

口中に抱き来咽せくそとより一筋
黄連の粉十名蜜糖脂百六十五づつ入丸一筋

本草綱目

小児尿に抱き来はにちりてより一筋
天南星皮粉より一筋脚の心に貼てより一筋

又方黄連を粉より一筋とあとうくと死のとより一筋
又方桑白皮の中は白きけはより一筋

又方鐵の赤瀉皮こそげりありてとせ付てより一筋
又方款冬を黄連を粉より一筋唾やく移ると餅のとより一筋

蛇床子の黄湯より一筋後た此餅を瘻の上にかへつ
けきくべー一筋

口舌の瘻をれりてより一筋
薔薇根水より一筋飲むと吐き出すべー一筋

皮派用の中夏は枝並に善法用也は瘻を久くとと金べー一筋
又方生姜汁を志なりより一筋

宿多くあつてより同

又方蘿蔔の汁を志厚りとり志厚りに果合々幾遍漱
涎を吐く一と極べー同

又方蘘荷の根を酒に漬ひたすとす白く一とす酒に合々漱
より同

又方大芡白蒸多分粉より一厚につけ涎を吐て金べー同
口中物出来舌ももあましく舌裂を治れなす

西瓜の水を傳より一なを時西瓜の皮をやき灰め一つく
べー 治法彙

又方黄蘗根をさきとあつてより一得効方

又方白礬の粉を多くとより同

又方又倍子炒黄連多分粉より一つけより同

口糜

口中并に舌をさけて飲食すことなり

柴胡と枸杞の根と多分より一二ふあに炙り用 本草綱目

又方乾さくろ酢刺果菜葉を固く粉より一煎粉小授ま酢

よとら地豆の心は塗るより同

又方好善樓姑多分粉より一口中に付てより 治法彙

涎液多く然より口中糜より

又方好善樓姑多分粉より一口中に付てより 本草綱目

口臭

口中全死

甜瓜の仁を粉より一蜜とく移り丸ト一毎粒は清水より

すきと丸の丸菜一粒合てより 本草綱目

又方白芷を粉より一食後よあせて用同

又方香薷根水より一煎ト一多くとより同

普救類方 卷之二十一

三

又方鯽の肉をすり舌に貼へ〜幾度も貼へ〜小児

舌腫らるに〜 本草綱目

小児舌の細かり物出来後らに

藥白皮を搗け灰を布り〜幾度も舌に傳へ〜 傳信元易方

木舌

赤も茶甘草に黄ト〜幾度も貼へ〜 本草綱目

又方砂糖に猪油をせに〜漱く〜 同

又方白蠟蚕を粉〜舌下つけ瘡を吐出さ〜 同

又方白蒸柱心等粉〜舌の下に〜 同

又方白蒸柱心等粉〜舌の下に〜 同

小児の本舌

鯽魚の肉灰を〜 同

又方蛇脱を焼灰〜 同

重舌

重舌の根は少舌のどに肉出来るなり

蒲黄の粉を傅〜 本草綱目

又方鹿筋灰粉〜 同

又方桑根白皮を水に煮て〜 同

又方馬竹を火して〜 同

又方百草〜 同

又方烏賊骨焼灰〜 同

衛生易簡方

又方桑本の皮のるにわらけをまじり烟粉タバコをほ後ごをせ冷ひやすは

小児唇の腫はれにより一本草綱目

緊唇きんしんの唇くちびるをけくはれらる分り

馬齒莧ばしげんをあみく炭すすドろをあみく同

又方鼈甲べいこ并な鼈頭べいとうを焼研ぎく粉ふ一付く同

又方雙站じやうぢやんをやき灰う一付く同

又方松脂しょうし灰あひをまじりて貼一同

又方蛇皮へいのひをやき灰う一付く同 千金簡易方

又方火ひを燒をまりつけく同

口吻くちふんをやき灰う一同

兔甲うさぎのかをやき灰う一付く同 本草綱目

又方吳茱萸ごしゆいを粉ふ一研ぎく心みおつく同

又方蘇根そうこんをやき灰う一付く同

得効方

又方楸柳きうりゆう一つをやき灰う一細こすり付く同

又方乳にゅうを焼灰あひ一つをまじりて粉ふ一乾かん姜きやう粉ふ

小児せいの口吻くちふんをやき灰う一付く同 千金簡易方

小児せいの口吻くちふんをやき灰う一付く同

唇くちびるを粉ふ一と一酒さけをまじりて貼同 本草綱目

又方乳にゅうをやき灰う一猪ぶた脂あぶらをまじりて貼同

又方艾あ連れん黃わう蘗びやく丹たん粉ふ一つをまじりて貼同

牙齒之部

牙齒痛

牙齒しやくしをいくむ一

香附子かうぶしを艾茶ちやと灰をまじりて貼同 本草綱目

粉こなを痛む齒を冷すく同 本草綱目

又方大蒜を煨灰の内におき焙し熱し一器にこし切にき
痛齒を製すべし同

又方黑豆をゆして煮ゆきこすすべし同

又方古稻生薑焙り白朮の粉をいし研との入齒を搗り

同

又方白朮煨灰し一椀房からく煮り湯から水と煮し

六七夜行沸しと含み漱ぶべし冷しを吐きまじり

同 衛生易簡方

又方胡椒十粒赤小豆十粒粉し一痛齒のつらさは 救急易方

又方蜂房山椒貝灰より湯から細小こまごまに煮し

すこし吐き出すべし一治法彙

雷齒いさむよ

杏仁を焼研ぶし一髪毛よりこし虫歯の穴にいしむべし

虫歯を治す方 本草綱目

又方銀香を生ゆき一ツツ合及ふかきより同

又方藍を煨灰し一椀房前に付てより目入及夜行付同

又方松脂灰虫歯の穴へふさげを煮ゆきと松脂を

虫つきて出かり同

又方乳香山椒等から粉し一痛齒をぬぐい虫歯の穴に塞てよ同

又方山椒炒し湯をかき一椀房焼等から粉し一と二入り

同 治法彙

又方甘草灰水で洗おし一治法彙

雷齒いさむよ 同

皂莢の殻を粉めし一歯をぬぐい涎を吐きこみ 本草綱目

又方南星の粉を象牙の粉にのり梅干の肉灰牙のふかき

涎を吐きより同

白朮（白朮）のうすく煎ど一はくちくとして
齒の痛む或は痛むしてを治す代ゆんを思ふよ
馬烏（馬烏）の車（車）拾二ふみちつ山椒（山椒）細辛（細辛）をまづ粉して少づを
齒の内外に付けば自然と脱れるなり 眞聚單方

牙齦

齒をいへむよ

杏仁（杏仁）一つ皮と炙りて灰より塩一ふみちく二合半にて煎ど
味ゆる行奏して食べ一 同

牙齦腫いへむよ

牛蒡（牛蒡）の根（根）有六寸を搗き汁を煮たり塩一ふみちく煮て膏に
一 齒に塗るよ 本草綱目

又方年と煮る糟づりの茹で灰を煮て焼く粉を一 齒
に塗るよ 同

又方青蒿（青蒿）を炙りて煎ど口中に含めて一 同

又方胡麻（胡麻）一合の水二合の量一合小煎ど一はくちくとして冷
吐出るべし 兼治すもあつて一 同

又方瓦屋（瓦屋）の上に坐する瓦を白炭を炙りて煎ど一はくち
くとして一 同

風癩

独活（独活）酒に煮て煎ど一はくちくとして一 同

又方馬齒莧（馬齒莧）を煎ど汁を食むべし 同

又方荔枝（荔枝）の皮を煎ど一はくちくとして一 同

又方又倍（又倍）を焙り粉して一はくちくとして一 同

又方松葉（松葉）酒中（酒中）に煮て煎ど一はくちくとして一 同

又方藤（藤）を焙り粉して一はくちくとして一 同

齒銀の肉をけく歯の根をわくつらに

毎日櫻湯ふ塩灰のれ合し百遍をうりやせりありと書じ同

熱毒して歯ぐき肉にけく歯の根をわくつらに

屋拖をみちく製ト塩少作りしかきまぜ口中ふくんで

又方塩燻灰みちく後り火にて焼赤く粉ふして猪脂

まじりて此歯銀を付べし 衛生易簡方

同換して水ぐさ血で歯の根をわくつらに

丁香一匁附干一匁麝香少をうり研すの歯銀に擦りて

本草綱目

蟹と合し歯ぐき腫爛肉をわくつらに

生地黄の汁を煮るうり臭美をひく火にて炙りまじり

たし臭いと殺通して粉めし歯銀を付くうり同

牙銀根をわくつらに臭みあり

芥菜茎灰焼研く粉し厚く付く金ト同

和室ハ歯の根より血出くやせれば牙に歯の根すこむじ

麦門冬灰水にて煮ト炙りて付べし同

又方百草毒灰を歯ぐきに塗るくうり同

又方又倍子灰やを粉し付べし同

又方蚕退紙を多に灰し歯ぐきに擦りてし 衛生易簡方

又方櫻花荊芥穂も分粉し付べし製ト飲るうり 得効方

又方爵金白芷細辛等分粉し付べしも上に竹葉を竹

皮と灰あうりして焼赤ト塩少しつれ銀ト或塩灰付くも同

走馬牙痛ハ歯ぐきにわくたれ方ど此抽出末を治せれば中

一遍おりの瘰癧より血出く臭く甚きものハ歯銀潰すべし

歯銀を死すたり小児は多きものなり

魁蛤の殼半徑より瓜すり火にて煨研んぬくもと煨と三
疋より一と粉より一付くより本草綱目

又方大なる鯢鱗をぶきまきおと腸風よりを肉へ當歸の粉と
つねはりて包らり火小く焼くも一とを去翹とつと粉より一

燻風やまきの粉より換りせ齒ら地は付くより一同

又方又倍子炒焦くも白朮又方知青みか粉より一先塩湯
にては火煎きて後火の薬瓜よりくより一同

又方新しき薬一ツ肉瓜より黄蘗皮やと粉より一もくはりて
とき牙ぐらに付べり一同

又方山梔子穢を去白朮瓜内より一つねはりて一同
付べり治法彙

又方鶏腸草を搗くより一付べり衛生易簡方

咽喉之部

咽喉腫痛

咽喉腫痛

生艾を搗けをちりりすり飲より一或ハ生艾葉葉より

醋んじれ搗くより一咽喉よりありけより一本草綱目

又方白朮を醋ありてすり喉の介にありてより一同

又方益母草瓜搗くより一水小のれ再ハ搗けをちりりすり
りん飲より一合物を吐出してより一冬は益母草の根を用
ひより一同

又方乾くより一紅毛をちりひより一搗くより一同
飲より一治法彙

又方甘草を水小煎ど飲より一又ハ桔梗を加る救急
易方

普救類方 卷之十一

商陸の根灰うすくすり硝ふひうし炒く喉の介に傳はす同
又方射干の根灰一片かきうすりけをちくと飲せうして
よし同

又方紅毛を搗けをちかりまを飲へし瘡をまて用くよし
冬は乾くろを灰水ふひうし一箇けをちかりとり煎ド
のこしてよし同

又方乾漆を火より焼く煙灰吸くろし同
又方巴豆皮灰より徐くしてむすびさる喉の介に傳はす同
檀喉風一箇喉介不徐喉の介まで腫る息あがらんをすろ灰

又方蒼耳子すろ古根生薑一塊同し搗けをちかり酒を
かきまぜ吸へし喉の介すから彼れといふなり同

又方梔子多灰やまを煙灰香くろし一傳信尤易方
又方皂莢を水に浸すりてをけを喉に灌れはし備易簡方
又方白岩より巴豆よりかき灰より先白岩を土器ふひま煮く

あまかきし中へ巴豆をいれ煮く火よりかろし白岩以
て煮く後巴豆灰より白岩斗をすり粉めしそをろし灰
にのこし喉を吹れしよし暴證知要

帝鐘喉風一箇の肉後て垂とずりしとすすろり息の出入候
あまかきし

塩灰焼咽れ後ろしあまかきりに付れ肉の腫れをちとる
なり本草綱目

急喉一箇喉介よりかきしと玉極急なりろりしとす治せざれば
息とろ死すろものなり

玄参一々牛蒡子一々づつ半分の炒半分の生を粉し
水にて飲べし同

又方苧麻仁四半粒研すり紙不ぬり搗し一丈反とが
を糊して舌下すべし同

又方炒蓋内のうがし油の他紙研すり同
ものをやみ夜寝時といふべし同

懸離喉の孔のあし粒拍あまを腫れきりいふむなり
牛蒡子一丈炒生甘草分ありと黄じ合と懸下は同

又方羊蹄草一丈あまを煮換し一うけを厚に煮し
汁れを吐かすべし同

又方白参一丈あまを煮し一塩とあまを研りせし
粒とあまを付てし同

又方又倍子白僵蚕甘草分粉し一梅干の肉は搗りせ批

把の核の大きき丸し一果をこし汁をのこしてし同
又方乾姜一丈あまを粉し一うづ舌の上におまをば

魚の骨しそもるの骨やこも咽しさらたるん
白芷一丈あまを粉し一水水にて煮てし

又方鯉魚脊の鱗と干六枚をすりあまを粉し一あまを粉し
一骨中のうづらわけを魚の骨さらたるんをよし同

又方皂莢の殻を粉し一鼻を吹つるべし一嚏いで鯉魚の骨
かき扱むし同

又方鉛一丈二粒研の大きき丸し一香してし一骨を
らぎは再び煮べし同

又方白鳳仙花のふれすりつづかたかきしそ竹の炭を
咽し濯つれしと一或粉し一咽し咽し

又方白鳳仙花のふれすりつづかたかきしそ竹の炭を
咽し濯つれしと一或粉し一咽し咽し

紅を煮くろくに

炭を焼くろくに 煮つと粉に 飯の湯又かきまぜ飲 救急易方

又方艾を煮くろくに 煮くろくに 飲 同

鐵を煮くろくに

冬葵を紙水に煮くろくに 汁を飲 本草綱目

竹木の類喉にかりて出づるに

板根瓜焼くろくに 酒の内におひく 酒攪くかんくろくに 附の

てし 同

鬚毛を煮くろくに 煮くろくに

針灸の乳鬚瓜焼くろくに 煮くろくに 飲 同

穀芒咽にかりて痛くしむ

胡麻瓜炒研く白湯に煮くろくに 用 同

又方鉛を煮くろくに 煮くろくに 飲 同

咽喉雜症

咽喉にむ

呉茱萸を粉に 醋に煮くろくに 吳の心は冷くし 本草綱目

又方青艾葉の汁を煮くろくに 飲 衛生易簡方

又方蛇床子を煮くろくに 煮くろくに 飲 同

含咽にむ

鷹爪屨紙やまを煮くろくに 煮くろくに 用 本草綱目

咽にむ

皂莢を粉に 鼻の中へ吹くは嚏を出して 後李の木の

根よりちりまの皮紙けつり水にのますりや 同

後のか 同

咽にむ

牛蒡子一合を炒すか 同

又方耳をかくらけくそ水洗出候へ同
 又方杏仁を葱煮く搗とらへ御小つて耳の内
 へ入るこくより 毎日之をやど入るこくより 肘後備急方
 又方石菖蒲を粉り炒熱し御小つて耳の内へ入る
 衛生易簡方
 又方石菖蒲附子を粉り烏麻の中へ入る御小つて耳の
 内へ入るより 肘後備急方

耳卒に似るもの

蛇蛻をやき粉り一箸を耳へ吹くより
 本草綱目
 又方塩豆を炒り炒熱し御小つて耳の内へ入る冷
 また丹毒を搗り一匙を耳の中へ入るより同

聾耳

聾耳、耳の中より臭をけきかしてやまらば或は膿血等

色あり

伏龍肝を粉り一日三度づつ耳へ吹くより
 本草綱目
 又方蜈蚣を炙り粉り一匙を耳へ吹くより同
 又方蒲黄の粉を耳の中へ吹くより同
 又方青皮紙焼粉り御小つて耳の中へ吹くより同
 又方白信子を粉り一匙を耳の中へ吹くより同
 又方蟬蛻を焼粉り御小つて耳の内
 へ入るより同

聾耳、耳の中より臭をけきかしてやまらば或は膿血等

蛻虫を葱煮にのれを化し一匙を耳の中へ吹くより同
 身の中へ漏れまかすよりかきよめておきより同

耳腫

耳卒に似るもの

若棟子核液さう搗くからし綿ふつこ耳へ塞てり本草綱目
又方生の商陸の根液けつり細くし耳の肉へさしく
し日六二度さくく同

耳卒に腫いむし

牛蒡乃根を搗けを煮り湯ふき塗る膏ふし耳に
ぬりてり同

耳卒に腫く膿つらん

白炭灰焼粉し竹葉をて耳の肉へ吹つる或は消小
つこ耳の中へさし肘後備急方

耳瘡

耳の内外より細かる瘡生れ或は凍瘡を来く瘡を
アツツりあも
五倍子を粉し冷みりそとぬりてり或は瘡より水

アツツりあも本草綱目

又方枸杞の根を煮り煮てり同

又方芙蓉二枚を煮り煮てり付くより耳の内り

瘡を来くろふい太の葉液大豆一粒やと搗つこ耳の肉へ

あさぎきてり傳信元易方

又方貝母を粉し付く衆妙方

又方寒を煮り煮てり備急良方

耳の後或は耳の根小細かり瘡を来く刺がごとし

枸杞根皮を粉し生ゆ少くととさ先地骨皮液あまて

瘡よりぬりけりて耳をあひてぬ太の葉を付く本草綱目

腫れ耳瘡耳の肉より細かりものあま金てはま生ずるあり

十日夜は兎の屎はらり服養の腋の中より焼く粉

付くより同

又方龜甲を焼灰やうじんに付くより同

又方白粉おしろいを土つちにまぜ付てより同

又方芝連あしづか灰粉あしづかに付くより同

出入耳

何なんれども虫耳むしみみ小入こいりより同

桃ももの粉こな紙しりして耳みみに塞ふさべし或ハ桃ももの葉はを擦すりけをより耳

小滴こたつより同 本草綱目

又方生薑せいしょう汁じゅうを耳みみの中なかへをそ入れより同

又方乳汁ちゅうじを耳みみに滴たれより同

又方進しんの汁じゅうを耳みみに滴たれより同

又方虫むしの耳みみ小入こいりより同

又方虫むしの耳みみ小入こいりより同

又方またの耳みみ小入こいりより同 傳信尤易方

又方好酒こうしゅ灰はい耳みみ小入こいりより同 衛生易簡方

又方またの耳みみ小入こいりより同

又方蒼耳そうじの汁じゅうを耳みみに滴たれより同 衛生易簡方

又方またの耳みみ小入こいりより同

小蒜せうそを擦すりけを耳みみの中なかへをそ入れより同

又方またの耳みみ小入こいりより同 本草綱目

又方胡麻こま灰はい研けんき灰はいの内うちへを耳みみにつけたより同

又方椒しほを葱そうの葉はの内うちへに入れおけバ化くわけ水みづをかけるより同

又方またの耳みみ小入こいりより同

又方醋すい灰はいの内うちへを耳みみにつけたより同

又方またの耳みみ小入こいりより同

又方生薑せいしょう汁じゅうを耳みみの中なかへをそ入れより同 衛生易簡方

のづからかへし 肘後備急方

相透耳よりころん

杏仁を搗ふらし 仲成をかりり 耳の中へ滴す

蠟燭をさるる耳の中へ滴す 死すものなり 本草綱目

又方 纒炭灰粉より 耳の中へ滴す 同

撥耳よりころん

破瓜耳の内へそとす ともちきり ちりすし ば 蚊おの

くさへし 同

又方 穿山甲灰粉より 耳の中へ滴す 同

又方 穿山甲灰粉より 耳の中へ滴す 同

聖耳がど耳よりころん

葛蒲の粉をさるる 炒り 袋をかりり 耳の中へ滴す 同

本草綱目

花蛾耳に入らる

猪汁を耳の内へそとす つけとす 衛生易簡方

又方 細篩灰耳の傍へかけとす 同

水耳よりころん

海苔を搗けをさるる 耳の中へ滴す 同 本草綱目

水銀耳よりころん 膠を腐すものなり

金銀耳よりころん 搗き 同

取出血

耳の中より血をさる

蒲黄灰粉より 耳の中へ滴す 同

又方 龍骨灰粉より 耳の中へ滴す 同

耳掻く血をさる

柳木の皮の毒をさるる 同

おのづからゆき金すきり同

酒瘡鼻

鼻の肉に瘡をまらるる

凌霄花山梔子等分粉し之を酒湯にて月心本草綱目

又方銀膏と酒糟と灰のりよ膏をこきぬ後まらる鼻より

わり内知わらひきど同

又方塩灰等分をりて同

又方硫黄白炭を粉し之を丹がしむりいし唾をこき

又方杏仁をすりさらし卵子此をこき後すりて

鼻の肉に瘡をまらるる

又方櫛櫛を焼灰し先米汁を拾の葉と黄をけりて鼻に

わらひ拭すのちこれ粉を鼻に傳し

酒瘡鼻の内いしむ

向蒸する黄麻子ち梅干の肉又つ齋歩二分を同し

杵合せぬして酒よつと鼻の内いしむ

鼻の内いしむ

硫黄を粉し之を水にそとて傳し

鼻の内いしむ

沖灰鼻の内いしむ

鼻の内いしむ

桃葉灰搗きさらし鼻の孔に

又方玄参城粉し之を酒湯にて

らげ鼻の孔に

又方百葉干を相の粉し之を冷水に

